



ドームふじ基地

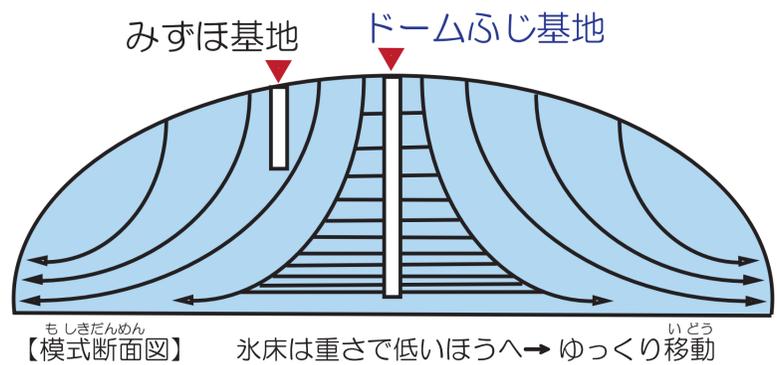
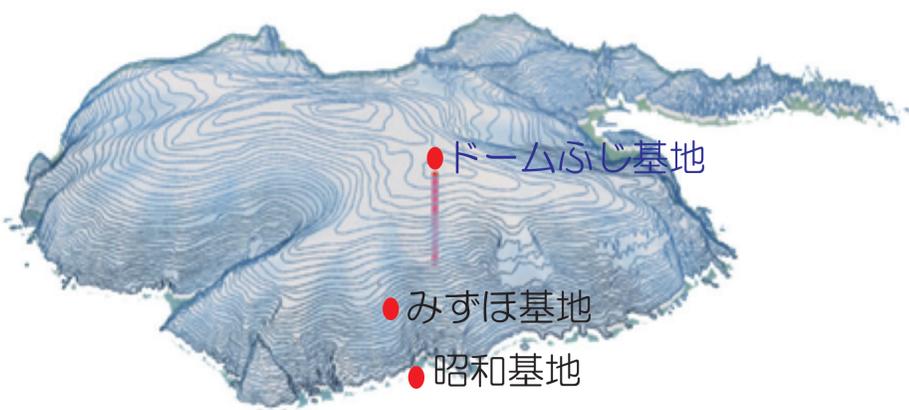


ドームふじ基地ってどんなところ？

ドームふじ基地は、氷におおわれた、伏せたおわん型の南極大陸の頂上にあります。

1995年に、昭和基地の南約1,000kmのドロンイングモードランド地域の氷床の最頂部に開設されました。そこは地球上で最も低い気温をしめす地帯で、氷の厚さは約3,000mもあります。

基地は発電棟、居住棟、掘削制御室などの施設のある建物と、深層掘削用雪洞（雪を掘って作った横穴）からなり、地下になっているため雪上からは入口しか見えません。周辺は平坦な雪原で、氷床は流動の影響がなく、右図のように最も深い部分までほぼ水平に地層のように重なっており、氷床コア掘削には最適の場所なのです。



位置	南緯 77° 19' 01" 東経 39° 42' 12" 標高 3,810m
気温 (1996)	最高マイナス 8.6℃ 最低マイナス 79.7℃ (平均 マイナス 54.4℃)
風速 (1996)	平均 5.4m/s ※ 風は弱い
氷の厚さ	3,028 ± 10m

※ドームふじという名は、第8次隊（1968年）が内陸旅行したときに命名した「ふじ峠」に由来する。

専門家にきいてみよう！



藤井理行名誉教授
国立極地研究所元所長
(氷河気候学)

20年ほど前になりますが、過去数十万年に遡る氷の掘削のため、ドームふじ基地で8人の仲間と一年を過ごしました。標高3,810mの高所のため気温は低く、夏でもマイナス40℃以下になり、吐いた息はすぐに氷の霧となる他、石油やビールも何もかも凍ってしまいました。

一緒に越冬した医者は、ドームふじ基地を「低温、低酸素、超乾燥、極夜と白夜、孤立」の「五重苦の南極越冬基地」と呼んでいました。

ドームふじ基地は、住むには大変厳しい所ですが、研究者にはとても魅力的な場所なのです。100万年ほど前まで遡られる氷、成層圏の窓となる大気、低温・乾燥した大気が見せる精緻な南天の星、長い白夜と極夜が影響を及ぼすヒトの生体リズム、などなど。いろいろな分野の研究者が、何かチャレンジしたくなる場所なのです。

ドームふじ基地など南極大陸の内陸域、科学のフロンティアでのこれからの日本の南極観測隊の挑戦に期待しましょう。